

# VISION NEWS



SEARCHING FOR THE FUTURE VISION  
TRIGGER NEWS No.1~5

## 【推奨環境】

この E-book 上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

## 【著作権について】

この E-book は著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

この E-book の著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、この E-book の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

この E-book の開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

この E-book は秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

この E-book に書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

この E-book の作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

この E-book を利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。



# Mercury Vision

## INDEX

- 1 FUTURE FACTORY**
- 2 ENVIRONMENT SENSING**
- 3 FUTURE NEWS EDITOR**
- 4 GROW UP AI PRODUCT**
- 5 REMOTE COMUNITEE&DEVICE**

MERCURY VISION LLC© 2018

<https://www.mercury-vision.com>

## 1 FUTURE FACTORY



未来の工場とはどんな形態が考えられるのでしょうか？今のよう、従業員が担当された配置で、決められた数の製造作業を黙々とおこなっている状況でしょうか？販売会社は、製造されたものを売るといった形態、構成なのでしょうか？倉庫はいまと同じように存在するのでしょうか？ロボットによる自動化が進むなかで、更なる効率化が図られていくのは間違いないでしょう。そもそも工場や倉庫は企業だけが保有する時代なのでしょうか？個人が契約をし、必要なときだけ生産するレンタルファクトリも可能な時代です。

未来ファクトリー（完成品・デバイス）はデータセンターと密接に繋がり、生産管理と市場からの予測データ、トレンドデータをリサーチし商品開発にダイレクトに活かされるマーケットのラボ機能としての役割が考えられます。ファクトリーと連携されたデータセンターもトレンド予測データやリサーチ機能と高速処理のサービスをおこなえるようになり、未来に必要な商品やCRMで解析された商品プロトタイプを即座にファクトリーで設計し、バーチャルで展開できるようになるかもしれません。

また、オンデマンドによるリクエストにも3Dプリントテクノロジーにより迅速に生産がおこなえるようになり、未来ファクトリーはサービスエレメントを提供する役割もあるでしょう。未来ファクトリーが上記の機能に変化しはじめると、もはや大手企業のみならず、工場ではなくロボットとAIのあるワークプレイスになり、ベンチャー企業でも新しいビジネスや小回りの利くユニーク生産で新しい生産スタイルが生

まれはじめます。

つまり、コモディティ生産としてのマザーファクトリーサービスや未来商品型、小ロットのワークプレイス製造サービス、バーチャル製造サービス、精密・品質製造サービスなどブロック化されたサービスに分かれていくことになるでしょう。

また、パワーテック、バイオテック、フードテック、ロボテックなどの生産管理は個別に成長し、従来の無機製造分野からエネルギー、有機製造分野へファクトリシフトしていくことになるでしょう。

## 2 ENVIRONMENT SENSING

“環境センシング・インフラ” を利用する社会



近未来社会では、震災・原発・津波などの緊急災害通信や公的施設へのライフラインと移動整備、など様々な緊急時のソリューションが未来サービスの機能の一つになっていくでしょう。

また、リモートセンシングなどの技術により、衛星情報から得た様々な気象変化をビックデータにて予測、個人でもVRの環境センサーとクラウドシステムを使い、リアルなグラフィック表示が可能となり大気、水質、地質、交通量、測量（地上）、測量（空間）などのトラフィック、品質データ、環境データと災害対応サービス、品質サービス、がリンクし“安全”や“安心”の価値としてのデータ取得が簡単におこなえる社会に進化することでしょう。

さらに未来社会では、ハザード情報などが保険分野のみならず、環境センシング情報が日々の生活の一部に組み込まれていきます。空間情報、食物生産品質、デリバリー管理など、あらゆる生活シーンにおいてもインフラとしての利活用が進むでしょう。

これらの環境センシングを利用するサービスが生まれていきます。利用者としては、長寿化されロボットによる効率生産が進んだ社会においては、不安材料は地球規模での環境変化が自分の生活にどう係るか？国別による政策とテクノロジー基準の差異をどうリカバリーするか？食品やエネルギー資源の品質を生活基準として維持安定するには？などが担保サービスと考えるかもしれません。つまりは、“安心”材料を買うのです。

安心をサービスに変える未来として、“環境安心”と共通なものに“人コネクト”があります。

人材支援などの業務をおこなう会社は数多くあります。未来社会では、単なる業務工数やソフトウェア開発、マネジメント支援などではなく、ITやAIなどのテクノロジー利用したヒューマンコネクト&インテリジェンスサービスに進化していくでしょう。例えば、人間とロボットの工数配分やAIに教育するデータのみならず、成長データのメンテナンスをおこない、人と人とのセッションが高付加価値サービスとなる未来。簡単なサービスインターフェースはAIがおこない、作業はロボットがおこなう近未来（すでに現在おこなわれつつありますが）。ヒューマンコネクトを通した気づきをデータベースとして蓄積し、プロファイリング層別・整理されたデータを企業に付加価値販売する逆AIサービスが訪れるかもしれません。

人材派遣などのヒューマン・リソースを提供する企業は、従来、“人の工数”をサービスとしていました。未来社会では、AIやロボットなど会社や生活の中でサービスのフロントがスマートインターフェースになり、人間のコンタクトが少なくなってきたのを踏まえ（電話からメールのように）、人間を通したフロントサービス価値にシフトするでしょう。

人から連絡がもらえる、何回でも相談にのれる、コンシェルジュ、プロジェクト、企画のようなまだ不確実のものについての相談、紹介、R&D、など一度、フロントサービスで人間が判断し深いサポートやクリエイションをする新しいジョブが生まれます。さらにリファレンスツールとしてAIを活用し、スピード処理ができるようになり、創造のためのチームも瞬時におこなえることになるでしょう。

## 3 FUTURE NEWS EDITOR



最近、未来の事柄や情報をニュースソースとして扱うサービスが多くなってきました。企業の開発情報は守秘義務とされ、トレンド情報は過去のデータ分析による参考情報がほとんどでしたが、技術の進化と社会変化の同期もあり少しずつ変わってきているようです。企業も部分的にそれらの情報を価

値展開しはじめています。

未来社会での情報価値は、ビジネスや生活のあらゆる情報が瞬時に取得でき、整理・分類されポイント配分された均一的なニュースソースが増えていきます。

一方、個人や地域、商品などのカテゴリーに特化されたマイノリティなニュースソースやクリエイティブニュースなど固有な性質をもつニュースソースになっていくでしょう。

そしてさらに、未来を想定するエディトリアルやコンセプターが新しいニュースソース提供者として登場してくることでしょう。これには、いくつかの背景が考えられます。

ひとつは、やはり AI によるデータ解析などによる予測精度向上があるでしょう。また、企業の膨大な開発コストを自社で抱える時代から、オープンシェアにしていく時代の流れもあります。

さらに、VR などの仮想現実技術でのプロモーションとコミュニケーションや 3D プリンタやロボットなどの効率製造の技術進化も未来に目を向ける要素と言えます。

今後の未来記事は音声による PODCAST で読むから未来に取り組んでいる人の考えを聞いて刺激を受けたり、映像や画像を見て影響を受けストーリーをつく

ったりして、企業はそれを購入するスキームに変わっていくでしょう。それらのキーになる言葉が、未来思考であり、想像力であり、データとなり見える形になる時代とも言えます。

想定するということは、非常に刺激と確認をする上で大事な作業のみならず、忘れがちな未来という時間概念と人間の創造・知性の開発でもあります。

たとえば、未来ビジョンの想定、未来マーケットの想定、未来コンセプトの想定、などのように想定グループをつくり、グループの想定データセットと新しい想定データの差をシミュレーションで分析・表示させるなどが一例です。時間を未来という“想定”という横枠として敢えてつくり、オープンプロジェクトとして未来を魅せることで、新しい創造ビジネスへのトリガーやマイルストーン設計、成長する商品のアイデアなどが生まれることでしょう。

## 4 GROW UP AI PRODUCT





未来社会におけるサービスデータや機器、個人認証はますます利用が高まり、更には VR による双方向インタラクティブと AI プロダクトは生活にはなくてはならない機能の1つになるでしょう。端末のスペックはクラウドサービス契約で決まり、コア部分の処理機能のみプラットフォーム提供され、ユーザーはハードウェアを買う必要がなくなるかもしれません。

一方で、オープン AI オープンサービスプログラムがアップされ、それを利用する AI 端末も殆どが低価格で提供されコモディティ化される場合もあるでしょう。

また、未来社会では、プロダクトの定義や役割が大きく変わる事も考えられます。VR・5G ネット・3D プリンタなどの表示・通信・製造テクノロジーの進化を受け、製造とデータセンターで融合しはじめる時代、顧客がプロデュースの主役になる時代。” 現在” 商品製造はロボット・リソースが” 未来” 商品企画はリサーチ&コンセプトコンサティングのような人間・リソースでおこなうようになり、VR や AI 技術にて、より先の顧客やマーケットやサービスを創り出す役割に変わるかもしれません。

## ROLE OF AI STANDARD

また、AI プロダクトは従来のプロダクトと何が異なっているのでしょうか？ミニデータベース搭載して高速判断処理プロセスが搭載されているとすると、様々な広がりや普及が考えられそうです。

未来社会では、このような技術データを利用することで、高付加価値のサービスを受けられることになり、利用経過とともに、生活の一部となっていくでしょう。今後、このようなインテリジェント端末が世界規模で普及で便利になる一方で、考えることがおろそかになる傾向が強まるかもしれません。その意味においてもロボットを含むこれらの人工知能端末にも新たな役割と管理機能サービスレイヤーが必要になってきます。

たとえば、輸出規制、倫理規制、サービスエリア管理、利用プロファイル管理、管理者、個人情報管理、機密情報管理、通信管理、製造規定、宇宙・海底フロンティア産業規定・特殊開発規定などにもとづいたサービスベンダー、デベロッパー、データベース管理など、数多く考えられます。

未来社会に向けて、これらの基準や自由な AI 開発環境と定義を定める団体や集まりはいくつかあります。既に、ディスカッションされているとは言え現在のテクノロジー、社会システムのみならず、未来社会を視野にいたれた役割を考えることがシンギュラリティ時代への対応とも言えるのではないのでしょうか？新しい基準と応用規格を事業時間だけではなく、未来思考で考えることも必要になってくるでしょう。

- AI サービスをエリア提供した場合のセキュリティ基準
- 家庭で AI サービスを利用した場合の倫理サービス基準
- AI プロダクトにサービスをビルトさせる場合の通信基準
- AI プロダクトを製造した場合の製造先と輸出入規制
- AI プロダクトにおける自己学習データのサービス責任

## **5 REMOTE COMUNITEE&DEVICE**

最近、モビリティ機器によるワークスタイル変化から、新しいサービスを生み出し始めてきています。例えばビジネスコミュニティの在り方やミーティングなどが従来は個別になっていたものをスマート・プロセスの中に組み込んでしまっている点です。

ミーティング予約やメールの確認をスマートにおこなえるようにし、会議録も音声録も自動でおこなうことが可能で、バーチャル会議室による会議空間の演出環境までおこなうようです。時差による会議も、社内ウエビナーで効率的にシステム吸収され、必要な時に録画会議を受ける、という形になるかもしれません。参加者もアバターになるのかもしれませんが。

AI 技術によるアドバイス機能も含めると、もはや会社の会議というよりは、

そこに集まった人間と時間を共有した情報そのもので小さなクリエイティブビジネスを形成しつつあります。

これらのツールは、オープンプロジェクトや新規ミッション、未来商品などのクリエイティブかつインテリジェンスな活動には、適したサービスになっていくでしょう。

また、バーチャル上やリモート上にあるコネクトユーザーと同一オブジェクトやアプリをリモートで制御、センシングする技術も進んできました。

仮想世界とリアル世界のコンテンツミックスです。リアルセンシング技術やスキャニング技術を仮想空間コンテンツへ取り入れる新しいサービスです。

工場の組み立て支援、語学学習、介護支援、金融商品販売支援、小売支援、ビジネス会議ツールなど様々なマーケットがあります。人間の操作をセンシングし、リモートでロボット操作やバーチャル演出やコミュニケーションをおこなう技術との融合をおこないます。最近では、仮想通貨マーケットやデジタルポイントとの連携で仮想世界とリアル世界のマッチングビジネスはゲームの世界だけではなくなりつつあります。

しかし、これらのハイブリットビジネスやリモートセンシングマーケットは大きな可能性の半面、セキュリティや新しいリスクも考えなければなりません。

サービスにするためには、セキュリティ防止などの情報を担保する技術を確認することも重要ですが、経営と計画者のビジョンへのズレを修正する必要が最も大切です。未来社会のイメージを持つことがなければ、サービスにはジャンプしないでしょう、このビジョンのズレこそが一番のリスクかもしれません。その為の未来プロジェクト支援ツールやチーム経営をおこなう必要があるでしょう。

MERCURY VISION LLC© 2018/5

今回、記載した内容は弊社ホームページの VISION NEWS にアップされた



# Mercury Vision

内容を編集したものです。〈2018/1月～5月〉

尚、本ニュースをお読みになり新しいビジョンやヒントのキッカケが生まれ  
そうな方は、以下の CONCEPT SIMULATION を  
お試しになり、仮想プロジェクトを登録することをお薦め致します。

〈新規ユーザー登録〉

<https://www.mercury-vision.com/user-form2/?page=req&id=1>

〈CONCEPT SIMULATION〉

<https://www.mercury-vision.com/concept-simu/>